

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 青木 隆

研究課題		中国清朝ムスリム学者・劉智のコスモロジー（その12）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	明末の王岱輿と清代前期の劉智『天方性理』といった代表的な中国のイスラーム思想を対象として、イスラームと中国思想の両者を可能にするような彼らの思想の基本的な枠組みを解明する。そのため近年は積極的に、アラビア語・ペルシア語の研鑽を積む一方で、本邦未紹介の海外のイスラーム思想史学の蓄積を学習している。前年度より引き続き劉智『天方性理』の乗り超える対象であったと思しい王岱輿『正教真詮』の漢語表現の問題に取り組んでいる。
	研究 の 結果	近年の研究で王岱輿『正教真詮』は、マテオ・リッチ『天主実義』を踏襲した箇所が23カ所にのぼることが明らかにされた。しかし、王岱輿『正教真詮』の踏襲箇所について、なぜ踏襲がなされたのか、なぜ踏襲しておきながら踏襲したことを明らかにしなかったのか、踏襲することによっていかなる効果が現れているのか、ひいては王岱輿の思想表現におけるマテオ・リッチ『天主実義』踏襲の意義について論じられていない状況が続いている。目下、両者のテキストを比較し、踏襲箇所の再検討を行っている。しかし、前作「王岱輿『正教真詮』における太極の「借用」について」で示した方向で思うような発見が得られていないのは残念である。
	研究 の 考察 ・ 反省	王岱輿『正教真詮』は、オーソドックスな漢語でイスラームを表現するため、マテオ・リッチ『天主実義』の一神教的な漢文表現を剽窃したと考えられる。しかし、あたかも誰もが用いるようなクリシェであるかのように彼が『天主実義』の本文を剽窃していることを説得的に説明することは非常に難しい。王岱輿にとってイエズス会士の思想表現を剽窃することが従来の漢文イスラーム文献の思想表現を超克するための方法であったのは、マテオ・リッチの中国思想批判が従来の漢文イスラーム文献に対しても有効であると考えられたからだったのではないかと。新たにこうした視点を加えて考察をより深めてゆきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 令和6年度回需の著作研究会 青木 隆「バイダウィーの <i>rabbu al-‘ālamīna</i> 注釈と劉智の大世界小世界」 2025年3月13日/日本大学文理学部</p>	